

## 今、この人に Interview

通訳・英語活動講師・ほっとサポーター 橋田 ソコロさん

### グローバル化は地域から始まる。大きなところではなく、身近なところから取り組んで欲しいですね

#### ■フィリピンはどんなところでですか？

フィリピンは7000以上の島からなる国で、ルソン、ヴィサヤ、ミンダナオの三つのエリアに分かれています。ルソンではタガログ語、ヴィサヤではヴィサヤ語、ミンダナオでは一部スペイン語を話します。私は家ではヴィサヤ語で会話し、学校ではタガログ語と英語で勉強するという環境で育ちました。またフィリピンはスペイン、アメリカの植民地だったこともあるので、「パキキサマ」(助け合い)のフィリピンの文化と「マニャーナ」(また明日、また明日)とゆったり物事をすすめるスペインの文化、「No」をはっきり言うアメリカの文化が混じり合っています。そのため、フィリピンの人には世界中どこに行っても適応できる力があると思っています。

#### ■日本に来られたとき、日本の文化に戸惑いはなかったですか？

私の母は戦前セブ島で日本の貿易会社の社員や兵隊の家族の世話をしている仕事をしていて、日本の文化に慣れ親しんでいました。「嘘をつかない」「家のすみずみまで整理整頓してきれいにする」「人に迷惑をかけないようにする」といった日本人の教えを私は母から聞いて育ちました。子どもの頃はその意味がよく分からなかったけれど、日本で暮らすようになって、母の教えが大きな助けになりました。夫からも「日本人の忘れていた心を持っているね」と言われています。

#### ■お母様は、日本人に対して悪いイメージは持っていなかったのですか？

母は「悪い事をさせたのは戦争なのだから、仕方がない。日本人は本当は心の優しい人たちだよ」と言っていました。日本人は、母にとっても良くしてくれた



▲大津市内の小学校での英語活動の授業の様子。

そうです。日本人が親切にしてくれたから、私も親切にしたいというのが母の信条でした。だから今私が日本で人の役に立つ仕事ができることを、母は「恩返しだ」と言ってとても喜んでくれています。

#### ■日本で暮らし始めて、ギャップを感じたことはありますか？

最初は一軒家に住んでいたのですが、近所付き合いがなくとても寂しかったですね。日本人は親切ですが、外国人と分かると最初は様子をうかがっていてなかなか声をかけてくれません。そうすると、自分が受け入れられていないと感じて、とても辛いです。

結局10年後に今のマンションに引っ越しました。マンションではエレベーターに乗り合わせた時などに他の住人やその子どもたちと挨拶ができるので、意外にコミュニケーションが生まれやすいんです。子どもたちに「Hello! Good morning!」と声をかけると、「あっ、Hello!」と答えてくれるんですよ。

#### ■外国人を受け入れる側として、日本人はどんなことに気をつけたいと思いますか？

町内会など、近所に外国人が暮らしていることが分かったら、言葉が通じなくてもぜひ声をかけてあげてほしいですね。言葉に自信のない外国人から話しかけるのは、とても勇気のいることです。でも、日本人は、言葉が話せるかどうかはすごくこだわりますね。だから「自分は英語はできないから外国人とは話ができない」と一歩引いてしまいがちです。でも言葉が通じなくてもそれなりに、お互いに一生懸命伝えようとするのが大事だと思います。「私たちのコミュニティによろこそ」という気持ちが伝われば、十分ではないでしょうか。そうすることでお互いの理解が深まり、この人は日本語は話せないけど、こんなすごいことが出来るんだな、ということが分かったりして、お互いに受け入れあうことができると思います。

今はグローバル化の時代ですから、今後地域にも外国人の人が増えてくると思います。グローバル化というのは日本の外へ出ていくことだけではなくて、自分の



▲もともとフィリピンで日本語の先生になりたいと思っていたというソコロさん。「日本で、少し形は違うけれどもその夢が叶って、とても幸せです」。

#### ●プロフィール●

フィリピンのヴィサヤ諸島で生まれ育つ。フィリピン教育大学を卒業後日本人と結婚して来日、滋賀県大津市で暮らし始める。京都YMCA日本語学校で日本語を勉強後、日本語能力試験2級取得。現在は英語、タガログ語の通訳、翻訳として国の機関や滋賀県、市、教育委員会などの仕事に携わる。また小中学校での英語活動に従事するほか、県教育委員会の外国籍児童生徒の学習を支援するほっとサポーターも務めている。

住んでいる地域から始まるんですよ。大きなところではなく、身近なところから取り組んで欲しいですね。

#### ■今は小中学校の英語活動の講師をされていますね。どんなことにやりがいを感じていますか？

子どもが大好きなので、子どもの笑顔に接することができるのがとてもうれしいです。その他にも、日本語が話せない外国籍の子どもたちを支援する「ほっとサポーター」もしています。子どもたちは、自分の言葉の通じる人に出会うと安心するんですね。笑顔が見られて、がんばっている気持ちが伝わってくるんです。

学習支援をする中で、日本の歴史など、私にも分からないことが出てきます。そんなときは図書館に行って勉強して、なるべく子どもたちが分かるように工夫しています。

#### ■将来の夢や計画はありますか？

「ソコロ先生のように、外国に行っている学びたい」と言ってくれた6年生の女の子がいたんです。その気持ちがとても嬉しかったですね。「その気持ちがあれば大丈夫」と彼女には伝えましたが、私自身もとても励まされました。

私も今まで勉強してきたいろんなことが分かってきました。それを活かして、これからも人の役に立っていきたいですね。困っている人を助けるために勉強を続け、滋賀県で出来ることがあれば、時間があるかぎり協力したいと思っています。